

「お箸の心」

おはようございます。

10月に入りました。田んぼでは稲刈りが終わり、これから秋も深まっていくところです。この夏には、米が足りなくなり、お店のお米の販売コーナーはいつも売り切れとなっていました。新米が出回るようになり、ようやくどこのお店にもお米が並ぶようになりました。

5年生は今週、稲の脱穀を行いました。昔の脱穀を体験しようと、地域の宮原達明さんに教えていただきながら、千歯こき、足踏み脱穀機という古い機具を使って、刈った稲を一粒一粒の粃にする作業をしました。翌日は、（地域の三石さん）にエンジンで動く脱穀機をお借りして、残りの稲を脱穀しました。

最近では、稲刈りと脱穀を同時に行うコンバインという機械が主流ですが、刈った稲をばさかけして、天日に干したお米はおいしいと言われています。5年生が春から育ててきたお米もきっとおいしいのでしょう。自分たちの手で育てたお米を一口食べた時、どんな味がして、どんなことを思うのか楽しみですね。

さて、今日は、「お箸の心」という話をします。

昔、あるところに一人の男がいました。その男がお釈迦様に尋ねました。「お釈迦様、お釈迦様。地獄と極楽とはどんな所でしょうか」

すると、お釈迦様は「それでは地獄に案内しましょう」と言いました。

さて、地獄はお昼時でした。赤鬼や青鬼が忙しそうに、食事の準備をしていました。地獄では粗末な料理が出されているかと思っていたら、なんと豪華な料理がテーブルに並んでいました。まもなく、大きな赤鬼が入場の合図の鐘を鳴らしました。

すると、地獄に墮ちた人々が集まってきました。どの人もガリガリにやせています。目はつり上がり、顔色は真っ青でした。たった一つの入口から急いで入ろうとしましたので、転んで泣いている人もいましたが、誰も助けようとはしませんでした。自分の好きな席に座るやいなや、自分勝手に食べ始めました。まもなく、あちこちでケンカが始まりました。

「お前の箸がじゃまだ。どかせろ」

「うるせー、お前の箸こそじゃまだ」……

それもそのはずです。自分の腕よりも長い1メートルもある箸を使って食べていたのですから。二十分ほどの食事はケンカの中で終わりました。机や床には、食べ残しのおかずが散らばっていました。

次にお釈迦様は極楽に案内しました。食堂は地獄と同じ形をしていました。もちろん料理も同じです。入場の合図が鳴りました。すると、みんなにここにしながら、並んで列を作って入ってきました。自分の席に座り「いただきます」

の声で食事が始まりました。

周りの人と楽しそうに話しながら、あの長い箸を使って食べていました。みなさん、極楽の人々は、地獄とは箸の使い方が違っていました。さて、どうやって食べていたのでしょうか？

それはこうです。

長い箸を使ってごちそうをはさみ、「どうぞ」と言って、自分の座っている向かい側の人に食べさせていました。食べさせてもらった向かい側の方は、「ありがとうございます」とお礼を言うと、今度は「何が好きですか」と尋ねて、こちら側の人にごちそうを食べさせていました。お互いに、相手の欲しい料理を箸でつまんであげていました。どの人も、にこにこ顔で、お腹いっぱいになって、楽しい食事が終わりました。食事のあとの机や床も、それはそれはきれいになっていました。

地獄と極楽を見た男が言いました。

「お釈迦様本当の幸せというものが分かりました。ありがとうございました」それを聞いたお釈迦様は、にっこり笑いながら、うなずかれたのでした。お話は終わりです。

さて、みなさんは、誰もが、このお話のようなお箸（の心）を持っているのです。大事なのは、そのお箸（の心）をどのように使うかなのです。地獄のように使うか、極楽のように使うか。それはみなさんの心が決めるのです。

友だちを思いやり、友だちに思いやられ、感謝し、感謝され、いつもにこにこ笑顔、今以上に皆さんのクラスが、そして手良小学校がそうならうれしいです。みなさんは、具体的にどんなことを心がけて生活していきますか？考えてみてください。

以上で終わります。